

2020年度第6回阪神競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 鳥取特別

鳥取(とっとり)は、中国地方北東部の県。南部は中国山地で、北部の日本海沿いに鳥取・倉吉・米子の三平野がある。また、同県東部の市。同市は、江戸時代に池田氏の城下町として発展した。日本最大級の砂丘である鳥取砂丘は、国の天然記念物に指定されている。

○ 御影ステークス

御影(みかげ)は、神戸市東灘区の地名。名は「沢の井」という泉に神功皇后が御姿を映して化粧をしたことに由来し、六甲山地から切り出した花崗岩をこの地から出荷していたことから、花崗岩の石材は御影石とも呼ばれる。六甲山側は関西地区有数の高級住宅街として知られ、海岸地域は酒造地となっている。

○ チャレンジカップ(GⅢ)

本競走は、昭和25年に創設された重賞競走。当初は2400mで実施されていたが、27年に2000mに変更された。平成24年より実施時期を9月から12月に移し距離も1800mに変更、29年には2000mに延伸された。昭和28年以降、『朝日チャレンジカップ』として実施されてきたが、平成26年より再び『チャレンジカップ』に名を戻して実施されている。

<第2日>

○ さざんか賞

さざんかは、ツバキ科の常緑小高木。九州・四国の山地に自生する。晩秋に白い花をつけ、散るときは花びらがバラバラに落ちる。園芸・観賞用としても栽培され、赤花・八重咲きなどの品種がある。花言葉は「ひたむきな愛」「謙遜」。

○ 逆瀬川ステークス

逆瀬川(さかせがわ)は、武庫川水系の支流で、六甲山系の船坂峠東方に源を発し、兵庫県宝塚市を流れる川。また、宝塚市内の地名。昭和18年に、阪神(鳴尾)競馬場を閉場し、この地へ移転する計画が策定されたが、その後建設が中断し完成には至らなかった。鳴尾競馬場閉場後の阪神競馬は、昭和24年12月3日、仁川に新設された現在の阪神競馬場で再開された。

○ りんくうステークス

りんくう（臨空）は、空港のそばにあることを指す言葉。大阪府泉佐野市にある「りんくうタウン」は、関西国際空港の対岸に位置し、浜辺沿いに広がる関西最大級の公園施設や大型ショッピングセンターを有する大阪府の副都心のひとつとして発展している。

なお、同地域には JRA の場外勝馬投票券発売所であるライトウインズりんくうタウンがある。

<第3日>

○ エリカ賞

エリカ（Erica）は、ツツジ科エリカ属の植物の総称。常緑の低木で、南アフリカを中心に分布し、世界に 700 種類以上の種があると言われる。葉は小形で細く、スギの葉状で、色は淡紅色や黄色、緑など様々である。花言葉は「博愛」「孤独」。

○ 境港特別

境港（さかいみなと）は、鳥取県西部の市。市名の由来である境港は、国内最大級の砂州である弓ヶ浜半島の北端に位置し、日本有数の漁獲高を誇る良港。紅ズワイガニをはじめとして、マグロ・アジ・サバなどが水揚げされる。また、漫画家水木しげるの出身地であることから「鬼太郎に逢える町」としても有名。

○ リゲルステークス（L）

リゲル（Rigel）は、オリオン座のベータ星。表面温度は約 12,000°C、直径は太陽の約 70 倍の青色超巨星。カペラ・アルデバラン・シリウス・プロキオン・ポルックスと共に「冬のダイヤモンド」を構成する。名は、アラビア語で「巨人の左足」を意味する「リジル・アル・ジャウザ（Rijil al Jauzah）」に由来する。

<第4日>

○ オリオンステークス

オリオン（Orion）は、南天の赤道にある冬を代表する星座。中央に並ぶ三つ星がトレードマークで、大きく明るい星が多いことから容易に見つけることができる。星座を形成するベテルギウスとリゲルはともに一等星。名は、ギリシャ神話に登場する巨人に由来する。

○ 堺ステークス

堺（さかい）は、大阪府南部にある政令指定都市。摂津・河内・和泉の3国の境に位置していたことから「さかい」と呼ばれるようになった。令和元年、世界文化遺産に登録された「百舌鳥（もず）古墳群」など古代の史跡や、千利休、与謝野晶子といった文化人の出身地としても有名。

○ 農林水産省賞典阪神ジュベナイルフィリーズ（G I）

本競走は、昭和24年に創設され、平成2年まで『阪神3歳ステークス』の名称で実施されていた重賞競走。当初は1200mで行われていたが、昭和35年に1400mに延伸され、37年以降は現行の1600mで実施されている。平成3年には、牝馬限定競走となり、2歳（旧表記3歳）牝馬のチャンピオン決定戦となった。また、13年からは『阪神ジュベナイルフィリーズ』と名称が変更された。

ジュベナイル（Juvenile）は「少年」「少女」を意味する英語。フィリー（Filly）は、牝馬、特に4歳までの牝馬のことを指す。また、この言葉には「社交界にデビューする少女（女性）」という意味も含まれている。

○ 赤穂特別

赤穂（あこう）は、兵庫県南西端にある市。市内には大石神社・花岳寺・大石良雄宅跡など『忠臣蔵』で知られる赤穂義士の史跡が多く残る。また、古くから塩田が栄えており、生産される塩は「赤穂の塩」として全国的に知られている。

<第5日>

○ 北摂特別

北摂（ほくせつ）は、旧摂津国北部の地域。広義では兵庫県の一部も含まれるが、一般的には淀川以北の大阪府北西部を指し、池田・豊中・箕面・吹田・茨木・摂津・高槻の7市と、島本・能勢・豊能の3町が含まれる。

○ 再度山特別

再度山（ふたたびさん）は六甲山地西部、神戸市中央区と北区の境に位置する山。名は弘法大師が唐に仏教を学びに渡る際、航海の安全と学問の成就を祈ってこの山に登り、無事帰国できたことに感謝するため、再びこの山に登ったという故事に由来する。また、頂上付近に整備されている再度公園は、ツツジや紅葉の名所として知られる。

○ タンザナイトステーキス

タンザナイト (Tanzanite) は、青や青紫色を有する多色性の宝石で、一般的にタンザニアで採掘されたゾイサイト (灰簾石) を指す。12月の誕生石のひとつ。

<第6日>

○ サンタクロースハンデキャップ

サンタクロース (Santa Claus) は、クリスマスの前夜、子供達にプレゼントを届けるという伝説上の人物。名は、小アジア (トルコ) のリュキアの首都ミュラの司教聖ニコラウズの名がなまってアメリカに伝えられたことに由来する。ミュラでは祝日の前日に贈り物を交換する習慣があり、これがニューヨークに移住したオランダ系清教徒によって伝えられ、クリスマスプレゼントの習慣となった。

○ ベテルギウスステーキス (L)

ベテルギウス (Betelgeuse) は、オリオン座のアルファ星。表面温度は約 3,500°C、直径は太陽の約 1,000 倍の赤色超巨星。プロキオン、シリウスとともに「冬の大三角形」を構成する。

○ 朝日杯フューチュリティステーキス (G I)

本競走は、2歳 (旧表記3歳) 馬によるチャンピオン決定戦として昭和24年に創設された『朝日盃3歳ステーキス』を前身とする重賞競走。平成3年に牡・せん馬限定となったが、16年には牡・牝馬限定となった。実施距離は、創設時の1100mから昭和34年に1200mに延伸され、37年以降は現行の1600mに定着している。また、平成26年より中山競馬場から阪神競馬場に舞台を移して実施されている。

フューチュリティ (Futurity) は、「未来」「将来」を意味する英語。

朝日新聞社は、東京など全国に4ヶ所の本社がある新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 高砂特別

高砂 (たかさご) は、兵庫県南部の市。加古川の河口にあり、播磨灘に面する。化学製品・食品・鉄鋼などの製造業が盛ん。港と松の繁る景勝海岸が有名で、謡曲『高砂』に「高砂やこの浦舟に帆を上げて……」と謡われる「相生の松」が高砂神社にある。

＜第7日＞

○ 元町ステークス

元町（もとまち）は、神戸市中央区にある地名。明治時代以降「ハイカラ」や「ハイセンス」の代名詞としてその名を馳せ、商業地域として発展してきた。全長 1.2km の神戸元町商店街には、約 300 の商店が軒を連ね「元町らしさ」を意識したまちづくりと景観維持により、賑わいの中にも落ち着いた雰囲気が漂っている。

なお、同地には JRA の場外勝馬投票券発売所であるウインズ神戸がある。

○ 阪神カップ（G II）

本競走は、平成 18 年に創設された重賞競走。芝 1400m で実施される。中央競馬では、段階的に短距離競走体系の整備が行われてきており、同体系のさらなる充実を図るため、スプリンターとマイラー双方が一堂に会する競走として、本競走が実施されている。

＜第8日＞

○ 春待月賞

春待月（はるまちづき）は、12 月の異称。本競走は、来たる春への希望を込めて名付けられた。

○ フォーチュンカップ

フォーチュン（Fortune）は、「幸運」「富」を意味する英語。

○ ギャラクシーステークス

ギャラクシー（Galaxy）は、銀河、天の川を意味する英語。また、天文学においては、天の川に象徴される我々の銀河系と同じ形態の恒星の大集団の意味も持ち、一般に直径数千光年から数十万光年の大きさの空間内に、100 万から 1 兆にも及ぶ恒星と星間物質が密集しているものを指す。

○ 2020 ファイナルステークス

ファイナル（Final）は、「最終の」「最後の勝負」を意味する英語。本競走は、今年度の中央競馬を締め括る競走として実施される。